

「あの……  
お待たせしたア……」

「おおっ  
待ってました！  
人妻の……ゆらさん？」

「は、はい  
ゆらと申します  
今日はよろしく  
お願いします♡」

「その指輪……ホントに  
人妻なんだね  
旦那さんは知ってるの？  
このこと」



「いいえ  
主人には言っでなくて……  
私が働いてることも  
ナイシヨで……」

「へえ  
そうなんだ……  
それにしても……」

「えっ？」

「短いスカート♡  
パンツも際どいの  
履いてるんだね  
毛がはみ出ちゃって  
るよ?」

「あっ...やだあ!  
下から覗か  
ないでください...」

「ところで...  
ここって本番も  
オツケーって  
聞いたんだけど  
ホント?」



「...ええっ!?  
そうなんですか?」

「あ、いや...  
あくまで噂だけど...」

「嘘です、ウソ!  
困ります  
私結婚してますから...」

「だよ...  
でもそれ以外のサービスは  
大丈夫だよな?」

「あ...はい、それはまあ...」

「んちゅっ……レロっ……へろん♡」

「……」

「あの……いかがでしょう？  
気持ちイイですか……？」

「旦那さんにもいつも  
そうやってるの？  
まあ悪くはないけど……」

「俺が本当のフェラを  
教えてあげようか？」

「えっ？ 本当の……って……？」

「でもそんなおとなしい  
フェラじゃお仕事では  
通用しないよ？」

（真さんはいつも  
喜んでくれるのに……  
これじゃダメなのかしら？）



「ホラ、もつと鼻の下  
伸ばしてちんぽに吸い付いて  
いやらしくケツ振って!」

「ふおおん♡いやあアんっ♡  
ひひひでふか……?」

「はむううん♡むっちゅうう♡  
ごめね♡ごめね♡ごめね♡」

「ごめんなさい真さん  
私、あなたにもしたこと  
ないようなドスケベおしやぶり  
させられちゃってるのオ……♡」

「おふあん♡  
こんな恥ずかしいこと  
絶対できまふえん……♡  
んもっ♡ふもっ♡ずぞぞお♡」

「大分様になってきたね  
今度旦那にも  
してあげるといいよ」

「ホラ、もつと鼻の下  
伸ばしてちんぽに吸い付いて  
いやらしくケツ振って!」

「ふおおん♡いやあアんっ♡  
ひひひでふか……?」

「はむううん♡むっちゅうう♡  
ごめ♡ごめ♡ごめ♡ごめ♡」

「ごめんなさい真さん  
私、あなたにもしたこと  
ないようなドスケベおしやぶり  
させられちゃってるのオ……♡」

「おふあん♡  
こんな恥ずかしいこと  
絶対できまふえん……♡  
んもっ♡ふもっ♡ずぞぞお♡」

「大分様になってきたね  
今度旦那にも  
してあげるといいよ」

「ホラ、もつと鼻の下  
伸ばしてちんぽに吸い付いて  
いやらしくケツ振って!」

「ふおおん♡いやあアんっ♡  
ひひひでふか……?」

「はむううん♡むっちゅうう♡  
ごめ♡ごめ♡ごめ♡ごめ♡」

「ごめんなさい真さん  
私、あなたにもしたこと  
ないようなドスケベおしやぶり  
させられちゃってるのオ……♡」

「おふあん♡  
こんな恥ずかしいこと  
絶対できまふえん……♡  
んもっ♡ふもっ♡ずぞぞお♡」

「大分様になってきたね  
今度旦那にも  
してあげるといいよ」

「ホラ、もつと鼻の下  
伸ばしてちんぽに吸い付いて  
いやらしくケツ振って!」

「ふおおん♡いやあアんっ♡  
ひひひでふか……?」

「はむううん♡むっちゅうう♡  
ごめ♡ごめ♡ごめ♡ごめ♡」

「ごめんなさい真さん  
私、あなたにもしたこと  
ないようなドスケベおしやぶり  
させられちゃってるのオ……♡」

「おふあん♡  
こんな恥ずかしいこと  
絶対できまふえん……♡  
んもっ♡ふもっ♡ずぞぞお♡」

「大分様になってきたね  
今度旦那にも  
してあげるといいよ」

「ホラ、もつと鼻の下  
伸ばしてちんぽに吸い付いて  
いやらしくケツ振って!」

「ふおおん♡いやあアんっ♡  
ひひひでふか……?」

「はむううん♡むっちゅうう♡  
ごめ♡ごめ♡ごめ♡ごめ♡」

「ごめんなさい真さん  
私、あなたにもしたこと  
ないようなドスケベおしやぶり  
させられちゃってるのオ……♡」

「おふあん♡  
こんな恥ずかしいこと  
絶対できまふえん……♡  
んもっ♡ふもっ♡ずぞぞお♡」

「大分様になってきたね  
今度旦那にも  
してあげるといいよ」

「ホラ、もつと鼻の下  
伸ばしてちんぽに吸い付いて  
いやらしくケツ振って!」

「ふああん♡いやああん♡  
ひひひひふか……?」

「はむううん♡むっちゅうう♡  
ごめん♡ごめん♡ごめん♡」

「ごめんなさい真さん  
私、あなたにもしたこと  
ないようなドスケベおしやぶり  
させられちゃってるのオ……♡」

「おふあん♡  
こんな恥ずかしいこと  
絶対できまふえん……♡  
んもっ♡ふもっ♡ずぞぞお♡」

「大分様になってきたね  
今度旦那にも  
してあげるといいよ」

「ホラ、もつと鼻の下  
伸ばしてちんぽに吸い付いて  
いやらしくケツ振って!」

「ふああん♡いやああん♡  
ひひひひふか……?」

「はむううん♡むっちゅうう♡  
ごめん♡ごめん♡ごめん♡」

「ごめんなさい真さん  
私、あなたにもしたこと  
ないようなドスケベおしやぶり  
させられちゃってるのオ……♡」

「おふあん♡  
こんな恥ずかしいこと  
絶対できまふえん……♡  
んもっ♡ふもっ♡ずぞぞお♡」

「大分様になってきたね  
今度旦那にも  
してあげるといいよ」

「ああっ、いいよ  
ゆらさん……  
出る——っ」

「んっ!？」

「ぐんほお♡  
ぶつぐーびゅーびゅーわ♡」

どくどく  
どくどく

[illegible]

（あふうん……♡  
熱いのがたくさん……  
それにすごく濃い……♡）



「ハァ…ハァ…♡  
ど、どうでしたか…?」

「すごく良かったよ  
ゆらさん♡」

「せっかくだから他にも  
いろいろ教えてあげようか?  
もっとスケべなやつとか…!」

「ええ…?  
もっと…!?  
これよりすごいのが  
あるんですか…?」

（ああ…♡どうしよう…  
このままじゃ下品な  
おしやぶりばかり  
上手になっちゃう…♡）

